

# 2025年3月期 第3四半期決算 説明資料

2025年2月12日  
日本貨物鉄道株式会社

**1. 2025年3月期 第3四半期決算**

**2. 2025年3月期 業績見通し**

# 1. 2025年3月期 第3四半期決算

## 連結経営成績

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2024年3月期 第3四半期実績	2025年3月期 第3四半期実績	対前年同期	
			増減	%
営業収益	1,404	1,481	+77	+5.5
営業費用	1,418	1,457	+38	+2.7
営業利益	-14	24	+38	-
経常利益	-7	18	+26	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	-7	13	+20	-

## 単体経営成績

営業収益	1,134	1,193	+58	+5.2
営業費用	1,166	1,186	+19	+1.7
営業利益	-31	7	+38	-
経常利益	-24	-1	+23	-
四半期純利益	-16	1	+17	-

- 連結営業収益は、運輸収入では運賃改定効果や輸送量の増加により、前年度を上回り増収。
- 連結営業費用は、単体の電力単価高騰の影響で動力費の増加等があり、前年度を上回った。
- 連結営業利益は、連結営業収益の運輸収入が伸びたため営業利益を確保。また、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益も、黒字転換。

# 1. 2025年3月期 第3四半期決算

## セグメント別状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

		2024年3月期 第3四半期実績	2025年3月期 第3四半期実績	対前年同期	
				増減	%
鉄道ロジスティクス事業	営業収益	1,261	1,341	+80	+6.3
	営業利益	-94	-51	+43	-
不動産事業	営業収益	152	148	-3	-2.1
	営業利益	76	73	-3	-4.0
その他	営業収益	34	35	+0	+1.5
	営業利益	2	0	-1	-58.0

## (単体) 事業別状況

鉄道事業	営業収益	1,010	1,072	+61	+6.1
	営業費用	1,118	1,137	+19	+1.7
	営業利益	-107	-65	+42	-
関連事業	営業収益	123	121	-2	-2.0
	営業費用	48	48	+0	+1.2
	営業利益	75	72	-3	-4.1

- 鉄道ロジスティクス事業では、台風等の災害や当社の輪軸不正の影響が大きかったものの、2024年問題を背景とした鉄道シフトの進展により輸送実績は前年を上回った。また、輸送実績の増加や運賃改定の効果で運賃収入が増加したため、動力費等の経費の増加分を吸収できた事による増収増益。
- 不動産事業は九州長浜地区の建物新規貸付があったものの、前年度にマンション販売があったため減収減益。

# 1. 2025年3月期 第3四半期決算

## 連結財政状態

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2024年3月期 実績	2025年3月期 第3四半期実績	対前期末 増減	備考
資産	4,376	4,465	+89	流動資産 707億円 (対前期末 +127億円) 固定資産 3,758億円 (対前期末 -38億円)
負債	3,445	3,525	+80	
純資産	931	940	+8	
自己資本比率	20.0%	19.7%	—	

## 単体財政状態

資産	3,987	4,051	+64	流動資産 481億円 (対前期末 +102億円) ・現金及び預金の増 +87億円 固定資産 3,570億円 (対前期末 -38億円) ・減価償却の進捗による減
負債	3,368	3,432	+64	当期末長期債務2,290億円 (対前期末 +241億円) ・社債 440億円 (対前期末 +140億円) ・有利子借入 872億円 (対前期末 -32億円) ・無利子借入 977億円 (対前期末 +134億円)
純資産	618	618	-0	

- 2024年6月にグリーンボンドを含む社債を発行し140億円調達。
- 震災・大雨・噴火に対応したコミットメントライン（貸付限度額150億円）を継続。当期まで利用なし。

# 1. 2025年3月期 第3四半期決算

## 連結キャッシュ・フローの状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2024年3月期 第3四半期累計	2025年3月期 第3四半期累計	対前年同期	
			増減	%
営業活動によるキャッシュ・フロー	75	73	-2	-2.8
投資活動によるキャッシュ・フロー	-184	-209	-24	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	104	242	+138	+132.3
現金及び現金同等物の増減額	-4	106	+111	-
現金及び現金同等物の期末残高	236	317	+81	+34.3

## 単体キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フロー	65	77	+12	+19.6
投資活動によるキャッシュ・フロー	-142	-201	-58	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	56	210	+154	+271.3
現金及び現金同等物の増減額	-20	87	+108	-
現金及び現金同等物の期末残高	121	184	+63	+52.5

- 連結の営業活動によるキャッシュ・フローは、運輸収入の増収等により当期純利益が増加したものの前年度は補償金収入があったため流入額が減少。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資の増加により流出額が増加。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入の実行により流入額が増加。
- 現金及び現金同等物は期首から106億円増加し、期末残高は317億円。

# 1. 2025年3月期 第3四半期決算

## 品目別輸送実績表

(単位：千トン、単位未満切捨て)

	2024年3月期 第3四半期累計	2025年3月期 第3四半期累計	対前年同期	
			増減	%
輸送量	19,602	20,005	+403	+2.1
コンテナ	13,582	13,901	+318	+2.3
農産品・青果物	1,135	1,147	+11	+1.0
化学工業品	1,153	1,173	+19	+1.7
化学薬品	817	810	-6	-0.8
食料工業品	2,269	2,381	+112	+4.9
紙・パルプ	1,504	1,574	+70	+4.7
他工業品	936	885	-51	-5.5
積合せ貨物	2,395	2,411	+16	+0.7
自動車部品	526	542	+16	+3.1
家電・情報機器	266	287	+20	+7.8
エコ関連物資	285	350	+65	+22.9
その他	2,291	2,334	+42	+1.9
車扱	6,019	6,104	+85	+1.4
石油	4,140	4,238	+97	+2.4
セメント・石灰石	991	1,006	+15	+1.5
車両	579	582	+3	+0.5
その他	308	277	-30	-9.8

- コンテナは、食料工業品が、記録的な猛暑に伴い、清涼飲料水及びビール類を中心に需要が旺盛となったことや一部顧客における鉄道シフトにより増送となった。紙・パルプは、ペーパーレス化の進展に伴う紙の需要減が続く中、鉄道シフトや安定した出荷により増送となった。エコ関連物資は、中央新幹線建設工事に伴う発生土の運搬や令和6年能登半島地震の災害廃棄物の輸送等により増送となり、コンテナ全体で前年を上回った。車扱は、石油が、長期連休における移動需要増加等によりガソリン及び軽油が好調な荷動きとなったほか、セメントは、顧客における定期修繕計画の変更等により増送となり、車扱全体で前年を上回った。© Japan Freight Railway Company

**1. 2025年3月期 第3四半期決算**

**2. 2025年3月期 業績見通し**



## 2. 2025年3月期 業績見通し

### 連結

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2024年3月期 実績	2025年3月期 見通し	対前年同期		2025年3月期 前回見通し (2024.11.12)
			増減	%	
営業収益	1,885	1,994	+108	+5.8	1,996
営業利益	-47	15	+62	-	12
経常利益	-42	4	+46	-	4
親会社株主に帰属する 当期純利益	-35	52	+87	-	20

### 単体

営業収益	1,525	1,633	+107	+7.0	1,641
営業利益	-67	-3	+64	-	-5
経常利益	-62	-14	+48	-	-14
当期純利益	-47	42	+89	-	10

- 既存の輸送力を最大限活用し、物流の2024年問題やカーボンニュートラルなどの期待に応え、対前年増収を見込む。
- 台風10号等による災害の影響、及び、輪軸組立作業における不正行為の対策による費用を織り込むものの、連結の各利益及び単体の当期純利益は黒字を確保する。なお、特別利益の増加が見込まれるため、当期純利益は前回見通しよりも増加を見込む。
- 大型コンテナの取扱拡大、積替ステーションやパレットデポの整備で総合物流事業を推進し、安全管理の徹底、災害発生時にも迅速に対応できる体制を確立し、お客様のニーズに応じていく。

〔当社グループの事業系統図〕

